西東京市市民協働推進センター

令和元年度第10回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：令和2年2月18日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階　第3、4会議室
■出席委員：熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤委員、柴委員、久松委員、平林委員、三好委員＜以上8名、五十音順＞
■事 務 局：小松センター長、鈴木副センター長、妻屋福祉活動推進課長、山田地域福祉推進係長、青木主事

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、2月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：アクセス数で「猫の足あと第2ハウス」とはなにか。
事務局：「NPO法人猫の足あと」で若者支援のために部屋を貸している。
委　員：相談で「社会教育士」とあるがなにか。
委　員：社会教育士という資格ができた。いろいろな現場で社会教育の知識を活かしていく。学んだ後に活動につなげる可能性があるということで文科省が認める資格だ。
委　員：相談で視聴覚障がい者の団体とあるが、視覚障害と聴覚障害が一緒になっているのか。
事務局：視覚障害の間違いだ。
委員長：全国コミュニティカフェとはどのようなものか。
委　員：コミュニティカフェという名前で普及している団体がある。全国フォーラムを府中で開催する予定がある。コミュニティカフェとは居場所やサロンなどをさす。その全国フォーラムを府中で開催する予定がある。全国で取り組んでいる方々が集まり運営や課題について語りあう。

2. 2月以降の事業について

事務局より、3月以降の実施事業について説明があった。

委　員：地域連携促進事業で南部地域ネットワークに入っていない者でも講演会に参加できるのか。
事務局：参加できる。
委員長：西部地域ネットワーク(にしにしnet)に参加している。西部地域では、様子を見るために参加する事も可能だ。
委員長：中部地域のエリアはどこか。
事務局：保谷町、田無町、泉町、住吉町、北原町だ。
委員長：2月9日のドキュメンタリー映画会に参加し、シンポジウムも行った。映画は3.11以降の被災地で復興を色々な形で行っていることを追いかけて撮影している。体育館は寒く実際の避難所となった場合はこうなのだと実感した。
委　員：参加者の感想を集めたのか。
委員長：参加者全員からではないが、アンケートを集計している。登壇者との質疑応答を行った。

3. センター業務の執行に関する事項（重点事業の実施結果）について

事務局より、第11回NPO市民フェスティバルの実施結果について（アンケート結果）の説明があった。

委　員：アンケートによると、相談者がイベントを知らなかったとあるがどういうことか。

事務局：相談に来られた方はフレスポひばりが丘の近隣マンションにお住いの方で、フレスポでこのようなイベントを行っている事を知らなかったとの事だ。通常の配架場所とフレスポにはチラシを置いたが、近隣マンションへの配布は管理組合の許可が下りない等の理由のため行っていない。

委員長：参加した方の意見を聞きたい。

委　員：展示の間隔が狭いと感じたのでレイアウトは工夫が必要とは思う。団体同士の交流があり、お互いにメリットがあった。

委　員：レイアウトは要検討だが、他団体との交流があり事務所にいるだけではつながる事が出来ないが、イベントに参加することによりつながりができ、良い機会となった。

委員長：周りの店舗から意見はあったか。

事務局：苦情はなかった。人を集めることは大変なのでこのイベントで人が集まったことにより売り上げもあがったと感謝された。

委員長：来場者人数のカウントだが、アンケートの回収数と差がある。

事務局：アンケートの回収数は販促品の数とほぼ同じである。来場者のカウント方法だが今回は2階に上がってくる方を両側でカウントしてもらったが、どのような方法が良いか検討する必要はある。発表にあたり協働コミュニティ課に相談したが、実数でよいとの回答だった。

委　員：1階に来た人を2階に誘導する方法が必要だ。

委　員：施設が協力的というのは良い。好意的であるなら回を重ねることによりお互いに協力出来ることも出てくると思う。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

2. 来年度の事業計画及び予算について

事務局より令和2年度西東京市市民協働推進センター事業計画・予算（案）について説明があった。

委　員：目標値で随時と通年があるが使い分けのルールはどうなっているのか。

事務局：特に決まりが無いので統一したい。

委員長：随時はたまに感がある。相談事業は随時でボラセンとの連携は通年となっている。

委　員：回数が目標値に当てはまるかどうかである。

事務局：目標値に随時は確かに状況であり値ではない。

委　員：NPO市民フェスティバルも1回実施する事は決まっているので、目標値ではない。決定ではないか。目標値であるならば来場者数の4000名超える事とかになるのではないか。

委員長：やること自体を目標にするのかどうかだ。

委　員：フォーマットに合わせて作成しているものなのか。回数が増えることを目標値にしているのか、回数を増やすことに負担もあると思うので、何を目標値にしていくのかだ。回数は予定であるとは思う。

事務局：方針の実現に向けて実施するという事だと思う。

委　員：5年の計画の中でどういうベクトルでみていくかである。回数を目標値にするのであれば、2年目は2回、5年目は5回となる上昇を想定してなら1年目が1回となるので良い。実施が1回と決定しているなら、どう人を呼び込むかという事が目標値となることも考えられる。5年トータルの中で変化がないというアウトプットになってしまう。動きが確認できる目標値にすることであとの説明がしやすいのではないか。

事務局：1回実施の目標値は違う評価軸を考えなくてはならない事と1回開催することに対しての目標値ととらえることも出来るという理解はした。

委　員：そもそも目標は何なのかと考えることは難しいので予定での意味で考えられるのではないか。

委員長：事業計画の中では1回は1回ととらえるが、5年のベクトルでどういう上昇を考えるのか。各事業の中で考えを入れながら目標値を組んでいくという形にするか。

事務局：この表はこれで承認していただき、どのように目的の成果を出していくかの目標値については来年度当初に説明と、どういう評価と成果を報告できるかを再度検討したいので引き取らせて欲しい。

委員長：目標値をどう決定するかは一度引き取ってもらう。審議すべき内容はボラセンとの連携を進める事と運営委員会の回数について意見交換がしたい。ボラセンの担当理事という立場で両方の会議に出ているが、ボラセンとの連携については会議で活発な意見が交わされている。イベントへの参加などでゆめこらぼと連携出来ないか意識して動いていると思う。個人から団体へ、団体から個人へうまく循環していくと良いとは思う。サロンDEこらぼについて行政はどのようなイメージをしているのか。

事務局：ゆめこらぼのサロンコーナーを市民活動の発信やつなぎに有効活用して欲しいとの事だ。行政は具体的なイメージがないので考えていきたい。

委員長：運営委員会の日数が7回という事に意見はないか。

委　員：回数が減っても1回2時間か。

事務局：そうだ。事前に資料を送り質疑から始める等工夫する必要があると思う。

委　員：運営委員会の性格だが、報告事項だけを貰って報告事項に重点をおく会議なのか、運営する為の会議なのか。

事務局：次年度は7回とし今年度より回数が減り、会議の間が空く事があることにより報告事項については事前に資料を送付することで時間を短縮する。協議の時間を十分とるために報告事項を圧縮するような工夫を考えていると理解して欲しい。

委員長：事前に評価をしなくてはならないものは付議として事前に運営委員会を開催し協議する。付議する事業が今年度より減るため運営委員会の回数が減るという事だ。

委　員：回数ではなく中身が大切なので、報告事項は圧縮し協議の時間を取り会議の方向性が変わらないのであればよいと思う。

委員長：ボラセンの運営委員会は隔月で開催され、事前資料が配布され、協議の時間を多くとっている。話し合う時間が日数により削られるという事は進行により問題が無い。問題が無ければこちらで承認する。

3. 協　議　事　項

1. 運営委員会について

事務局より令和2年度西東京市市民協働推進センター活動計画（案）について説明があった。

委員長：ボランティアフェスティバルはどのような形で実施するのか。

事務局：実行委員会形式でブースを利用し体験コーナーやステージ発表等もあり、ボランティアの活動を知る場でありつなぎの場となる。

委員長：何人くらいの来場者があるのか。

事務局：田無総合福祉センターに入ってくるのは100名から200名程度だ。その日に行事と重なると来場者は少なくなるので幅がある。昨年は体育祭と重なり来場者はかなり少なかった。

事務局：フレスポで行ってはどうか。

事務局：フレスポでやりたいが、実行委員の年齢層が高く準備が大変なので諦めたとのことだ。

委　員：福祉センターではなかなか集客が難しいので、勿体ない。

副委員長：ゆめこらぼ通信が季刊誌になるということだが体裁などは変わるのか。

事務局：見開きの形式は変わらないが、内容はまだ決めていない。

副委員長：季刊誌にする理由はあるのか。

事務局：すべてに関することだが、ゆめこらぼの職員の数ではこの事業量が多く、次々と事業をこなすため、振り返りも出来ない。隔月で発行するにはやはり人手が足りず、人の体力頼みの綱渡りとなり仕事量も偏ってしまう。中間支援センターの職員はどのような役割があるとか学ぶための研修へ行く事も難しい。第三者評価でも指摘された選択と集中をしていきたい。

副委員長：紙面もボランティアに手伝ってもらうなどの方法もあるのではないか。自分達で全てやっているので大変になるのではないか。ある部分に関してはボランティアを活用してはどうか。

委員長：しみ活だが、定年退職して6月頃が適正な時期なのか。

事務局：分からないが、この時期にやってみたいと思う。

委　員：通信だが、職員だけではなくというのは他の人にお願いするコーディネーションは大変なので協力出ることがあれば手伝う。

委員長：計画の中の目標値などは事務局でどのような設定で動くか次回以降説明して欲しい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：3月17日（火）19時～21時

会場：イングビル3階　第3、4会議室